

# サガハイマツト通信

VOL.14

(平成28年9月号)

## 稼働まで着々 整備進む治療室C



最新技術を備え、来春開設を待つ治療室C

### CONTENTS

- 治療開始から3年 中川原章理事長にインタビュー
- データで見るサガハイマツト
- 【お知らせ】リレー・フォー・ライフに参加しませんか？
- 【スタッフ紹介】診療副部長 末藤大明先生



サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

### サガハイマツトの受診に関する相談窓口

電話 0942-50-8812

(受付時間:平日の9時~12時、13時~17時)

メール [saga-himat@saga-himat.jp](mailto:saga-himat@saga-himat.jp)

# 患者数が1500人を超える

括と重粒子線治療の今後の展望について  
サガハイマツ理事長の中川原章氏に聞きました。

## 公的保険適用拡大に向け 全国統一の治療プロトコール始まる

▼今後の重粒子線治療への期待、またサガハイマツの展望をお聞かせください。

今年4月から、骨軟部腫瘍への重粒子線治療が公的医療保険の適用となりました。次回の平成30年度診療報酬改定に向け、適用対象部位が拡大されるよう取り組んでいきます。その一環として、今年度から、全国統一のプロトコール(治療実施計画)による先進医療の臨床試験が始まります。これまでは、各施設が独自のプロトコールで治療していたため、これを全国で統一して治療成績を評価しやすくしようという取り組みです。現在の対象部位は、肝がん、肺がん、すい臓がんの3つですが、いずれも従来の治療法では難しい症例が対象です。なお、肺がんについては、サガハイマツの塩山善之センター長が研究代表者を務めています。

がんの治療法は日進月歩の勢いです。昨日まで治らなかったがんが、明日には、新しい治療薬が出て治るかもしれないような時代が来ています。がんの治療は決して諦めてはいけません。今後は、抗がん剤や免疫療法と重粒子線治療の併用療法が盛んになっていくと思われます。

また、一般的には、がん治療というと手術のイメージが強いですが、7月に実施したサガハイマツ一般公開などを通じて、重粒子線治療のよ

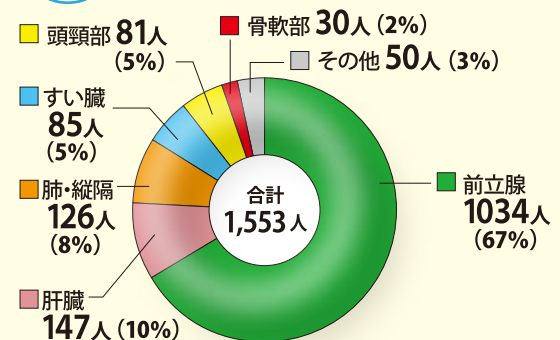
データで見るサガハイマツ

### 部位別患者数

2016年8月末日現在

### 前立腺がんが67%

最初に治療を開始したこともあり、前立腺がんが1034人で全体の約67%を占めました。2番目に多いのが肝臓の147人で全体の約10%。次いで肺・縦隔126人、すい臓85人、頭頸部81人、骨軟部30人、その他(\*)が50人となっています。



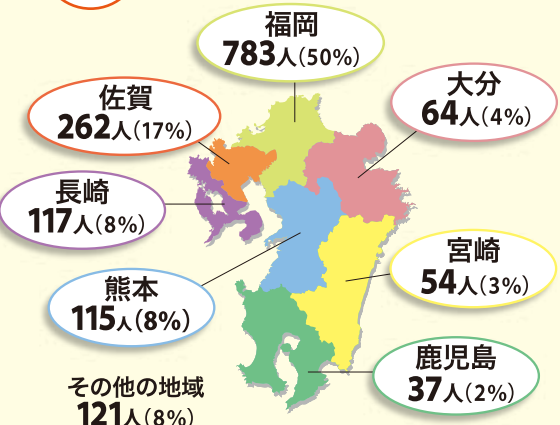
※その他は、直腸(骨盤内再発)、腎臓、リンパ節など

### 地域別患者数

2016年8月末日現在

### 患者数九州7県で約92%

都道府県別に見ると、福岡県が783人で最も多く、全体の約50%。次いで佐賀県262人(17%)、長崎県117人(8%)、熊本県115人(8%)、大分県64人(4%)、宮崎県54人(3%)、鹿児島県37人(2%)となっています。九州7県で約92%を占めています。



(山口、東京、大阪、北海道など)

うに「切らずに治せる」治療法に接することで、地域の子もたちに「がん撲滅」の意識が芽生えたら嬉しいです。

## 中川原章 理事長 インタビュー



# 治療開始から3年

### 【略歴】

なかがわら・あきら / 1947年生まれ。72年、九州大学医学部卒。千葉県がんセンター長を経て、2014年4月、地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館理事長に就任。15年6月から公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団理事長に就任。鳥栖市出身。

**サガハイマツトは治療開始から3年が経ちました。治療患者数は当初計画を上回り、順調に推移しています。これまでの総**

▼8月末で治療開始から丸3年が経過しました。現在の治療状況はいかがですか。

8月末現在での治療患者数は、佐賀・福岡を中心に1553人となりました。サガハイマツトは開設から3年間で1250人の治療を目標としていましたので、大きく上回ったこととなります。改めてサガハイマツトは九州・山口地区に必要な先端的な医療施設であると実感しています。

治療の対象となるがんは、前立腺、肝臓、肺、すい臓、頭頸部が多く、これらで9割以上を占めています。また、骨軟部腫瘍の重粒子線治療については、有用性が高く評価されたことにより、今年4月から公的医療保険の適用となりました。現在、サガハイマツトでの治療実績は30件ですが、今後増えていくと思われます。さらに、数は少ないですが、腎臓がんや直腸がんの手術後に骨盤内に再発した患者さんも治療しており、重粒子線治療の有用性は広がっています。

## 重粒子線治療の有用性広がる

▼理事長就任から1年余り経ちましたが、重粒子線治療のイメージは以前と変わりましたか。

日本では1984年の中曽根内閣の時、「第1次対がん10カ年総合戦略」を掲げ、その目玉のひとつが重粒子線治療装置の技術開発でした。千葉県の放射線医学総合研究所(放医研)はその時から10年かけ、1994年に重粒子線による治療に成功しました。

ちょうどこのころ、私は千葉県内で勤務しており、放医研にも近かったことから、これから重粒子線治療がどのような実績を積み重ねていくのか関心を持っていました。また、そんな最先端の治療施設が私の地元である鳥栖にできると知った時はとても驚きました。その後、県内のがん診療連携拠点病院でもある佐賀県医療センター好生館の理事長として佐賀に戻ってからは、九州で唯一の重粒子線治療施設が佐賀県にあることの有用性を再認識しています。

サガハイマツトは、好生館をはじめとして、九州・山口地区で75もの医療機関と医療機能連携協定を結んでいます。紹介元の医療機関からの信頼は何より大事です。診療情報を共有しフォローアップを丁寧に行うことで、この信頼をさらに高めていきたいと思っています。

▼サガハイマツトの今後の注目ポイントは、

ひとつは、来年4月に向けて整備が進んでいる、最新鋭の技術を搭載した3番目の治療室の稼働です。この稼働により、当然のことですが、今まで以上に患者さんの治療ができるようになる意義は大きいと思っています。もうひとつが、この稼働に合わせて、子宮がんと食道がんへ治療対象を拡大することです。特に婦人科系で初となる子宮がんについては、サガハイマツトの外部の専門医を含めた検討班が編成された段階であり、できるだけ早く治療がスタートできるよう取り組んでいきます。



今年も開催!

## リレー・フォー・ライフ(RFL)に参加しませんか?

佐賀市のどん3の森で9月24～25日開催

リレー・フォー・ライフ(RFL)とは、がん体験者やその家族などを支援し、地域全体でがん征圧を目指すチャリティーイベントです。佐賀県では昨年初めて開催され、今年も「集う」をテーマにがんの悩みや苦しみを共有し、がん啓発活動に取り組みます。

当日は、がん患者や家族、友人、支援者らが交代で会場を24時間歩き続けるリレーウォークのほか、無料のがん個別相談やがんサロンなどを行います。リレーウォークへの参加の際は一人1000円の募金が必要となりますが、がん経験者や高校生以下は無料です。

がん患者はもちろん一般の方も参加でき、チームを組めない場合は個人でも参加できます。仮装もOKです。ボランティアやメッセージが書かれた紙袋(ルミナリエバッグ)の作成や募金だけの参加もできます。



昨年の様子

<日時>

9月24日(土)正午から25日(日)正午まで

<場所>

どん3の森(佐賀市天神)

<問い合わせ>

リレー・フォー・ライフ・ジャパン佐賀実行委員会

☎ 090(7445)5689 ホームページ [www.rflj-saga.jp](http://www.rflj-saga.jp)

### スタッフ紹介

診療副部長 末藤 大明さん

【略歴】

すえふじ・ひろあき / 1973年福岡県大牟田市出身。福岡大学病院、九州大学病院、群馬大学病院などへの国内留学を経て、久留米大学病院在籍。サガハイマツトは、立ち上げ当初の2013年4月から勤務。趣味は各地の温泉を巡ること。



### 安全で確実な治療を目指す

患者さんの治療計画や実施をはじめ、治療後のフォローも行います。サガハイマツトは立ち上げ当初から携わっていますが、安心して治療に臨んでもらえるよう、患者さんとはできるだけ話をするようにしています。人生経験豊富な患者さんとの会話を通じて、こちらが勉強になることも多いです。治療を受けた方からの口コミで訪れる患者さんも多く、治療に満足していただいていると実感しています。今後、治療室も増え、これまで以上に安全でより確実な治療を心がけたいと思います。

### ●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツトへのご支援をよろしくお祈いします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

### サガハイマツト通信 vol.14

(平成28年9月号)

【お問い合わせ】

発行 ■公益財団法人  
佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当)本村

所在地 ■〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町3049番地

TEL ■0942(81)1897 FAX ■0942(81)1905

H P ■<http://www.saga-himat.jp/>